

今年度の「新入生向け海外留学・国際交流ガイダンス」には、約1800人が参加しました。これは、新入生の25%になります。ガイダンスは、1年次でのERP（英語強化プログラム：English Reinforcement Program）に始まり、各学部が2年次を中心に行う学部教育課程における海外留学（Study Abroad Program）、そして4年

新入生の動きから、海外留学志向の高まりと、法政大学のイメージの変化を実感

スーパーグローバル大学の今

Go Global Hosei

派遣留学をはじめ、多様なプログラムで人間力豊かなグローバル人材を育成

進路のヒントI

目指せ！グローバル人材

“世界のどこでも生き抜く力”を——文部科学省のグローバル人材育成事業（GGJ:2012年度から2016年度）、および2014年度からのスーパーグローバル大学創成支援（SGU）の採択を機に、グローバル化、グローバル人材育成のための取組を加速させてきた法政大学。創立150周年を迎える2030年度には「世界から進学したい大学となる」と、その取組を一段と加速していきます。取組の中核をなす三層の海外留学支援について、国際化担当副学長の福田好朗先生にお聞きするとともに、グローバル化に対応した新たな入試制度についてもご紹介します。



外国人留学生受け入れ者数	794人
海外留学学者数	1058人
海外協定校	215校
短期語学研修制度参加者数	196人

2016年度実績

次での「派遣留学制度」に至る一連の流れを説明するものですが、その参加者数は、高校生のグローバル志向、また本学のグローバル化の取組への期待のバロメーターになると考えています。本学の海外留学の目玉である派遣留学制度を使っ

て、2016年度に海外留学した学生は82名。にもかかわらず、それを最終目標に、留学や海外体験を志向

する学生が年々増えているということは、高校時代から大学での留学を考えていた学生が確実に増えているとみて間違いないと思います。またオープンキャンパスや各種の大学説明会でも感じるのですが、本学を目指す高校生の多くが海外留学をはじめとするグローバル人材育成に興味を持って

いることから、本学のイメージが急激に変わってきているのではないかと感じています。まさにこれは、GGJ（Go Global Japan）からSGU（Super Global Universities）へという一連の取組の一つの大きな成果ではないでしょうか。

派遣留学を頂点にした三層構造の海外留学支援、グローバル人材育成システム

派遣留学制度と認定海外留学制度

本学の海外留学で、最も特徴的なのが派遣留学制度です。1979年に始まり、利用者の多くは、実社会で国際的に活躍しています。最大の特徴は、派遣先大学の授業料は全額免除の上、年間70万円ないしは100万円の返還不要の



法政大学副学長
グローバル教育センター長
福田 好朗先生

Profile

1971年中央大学理工学部卒業、1989年神戸大学論文博士(工学博士)。1996年法政大学工学部教授を経て、2009年より同デザイン工学部教授。2007年法政大学大学院委員会議長、2011年常務理事、評議員等を歴任。2014年よりグローバル教育センター長、また2015年より法政大学副学長。

奨学金が給付されることで、元々、学生が海外へ出ることの少なかった時代に、それを奨励しようと、1学年に1、2名を想定して始まったものが、大学全体でグローバル化を推進する今となっても、待遇面も変わらず継続されているわけです。当然応募資格は厳しく、基準となる語学スコアだけでなく協定校の求める成績（GPA）も条件になります。また費用の一部については、後援会からの支援があるのも特徴です。

私費留学をオフィシャルな留学として認める認定海外留学もユニークです。一般的に私費留学は、個人で留学先大学と交渉し、留学許可を得た後、所属大学を休学して出かけるというもので、留学期間に応じて卒業も伸び、個人負担も大きく膨らみます。しかし認定海外留学では、事前の申請で、留学先大学での修得単位を、各学部が世界ランキング等を参考にして単位認定できると判断した場合、交換留学に準ずる扱いとされ、大学の授業料の半額相当と後援会から10万円が奨学金として支給されます。留学期間が一年で、その間に留学生の大学で、国内での進級に必要な単位数を修得できれば、休学することなく4年で卒業できるので

です。各学部によるSA&ERP派遣留学制度も認定海外留学制度も、現在はグローバル教育センターが担当していますが、これらの前段階となるのが、SAプログラムと呼ばれる学部独自の留学制度と海外研修制度です。現在、13学部が実施していて、その背景や歴史、狙いも様々で、期間も10日間から10ヶ月まであります。必修となっているのは、国際文化学部が行う3か月、6か月の留学と、法学部国際政治学科が夏休みを使って行うオックスフォード大学での短期研修。その他の学部も、必修ではありませんが、それぞれの学部の教育目標に合った取組を行っています。

以上の二層の海外留学を目指す学生に必要な英語力を強化するのが、第一ス

テップともいうべきERP（英語強化プログラム）です。2013年に始まった学部横断型の英語強化プログラムで、3つのキャンパス（市ヶ谷、多摩、小金井）すべてで開催されていて、今春には800名が登録、授業の空き時間を利用して無料で受講でき、実践的な英語力を効率良く身に付けることが可能です。TOEIC®、TOEFL®、英検などを使ってレベル分けし、1クラス15人程度の少人数クラスで実施しています。また、Gラウンジ（Global Lounge）ではネイティブスピーカーが常駐しており、日常的な英会話コミュニケーションを開室中いつでも行うことができます。ここでは、各国からの留学生も適宜参加しており、語学だけでなく、異文化を理解するのにも役立っています。

三層構造を側面サポートするのが、学部横断型の全学公開科目「グローバル・オープン科目」と、海外からの留学生が、英語で日本について様々な角度

学内でグローバル体験のできる授業や施設も充実

から学ぶ「ESOP」（交換留学生受入れプログラム：Exchange Students from Overseas Program、1997）の日本人学生への開放です。グローバル・オープン科目は、ビジネスと経営、ビジネスと経済、国際関係、社会と文化、実践英語、科学と技術の6領域ごとに、英語による多彩な科目を用意しています。受講に当たっては英検などの語学スコアの提出が必要ですが、春学期で4500名が学んでいます。ESOPと併せて受講することで効果は一層上がると見込まれています。SAからの帰国生や、派遣留学などに備える学生に用意されているのがTOEFL iBT® 76以上で受講できるGISによる公開科目。また国際文化学部では、留学から帰国した学生の外国語運用能力の維持向上のためのアプリケーション科目を公開しています。

また2016年度から、すべての学生がグローバル体験のできるGラウンジが3つのキャンパスに設置されています。さらに2016年以降は、海外からの留学生が英語の授業だけで学位を取得できる英語学位プログラムを開設する学部も出てきていますから、英語に自信がある学生はそれらを受講することもできます。すでに経営学部ではGBP（Global Business Program）を、人間環境学部では持続可能社会共創プログラムHOSIEISCOPE（Hosei University, Faculty of Humanity and Environment, Sustainability Co-Creation Programme）を開設して、2018

年秋学期からは経済学部を中心に多摩キャンパスの4学部が係わるグローバル経済学・社会科学インスティテュートIGESS（Institute for Global Economics and Social Sciences）もスタートするなど、SGUの目指す海外からの留学生受け入れと、海外留学を含めたグローバル人材育成のための取組の両輪の噛み合う展開がいよいよ現実となりつつあります。

グローバル体験入試と英語外部試験利用入試を拡大

海外留学、グローバル志向の高校生に入試も対応

法政大学入学センター長
菊池 克仁さん



大学での学びやその変革を、高校生のみなさんがもっと身近に実感するのが入学試験です。本学ではSGU（スーパーグローバル大学）採択後の2016年度以降、グローバル化に対応した様々な入学者選抜を実施しています。

2016年度からスタートしたのが、グローバル化に対応したグローバル体験公募推薦入試。高校時代に半年間以上の海外留学体験がある方を対象に、書類審査と面接・小論文等で可否の決まる公募制推薦入試です。現在は文学部哲学科・日本文学科・英文学科、経営学部経営戦略学科、キャリアデザイン学部で実施しています。

もう一つが英語外部試験利用入試。一般入試の枠組みの中で、T日程（統一日程）入試日に行うもので、今年度は経済学部国際経済学科、人間環境学部、現代福祉学部、GIS（グローバル教養学部）、スポーツ健康学部、情報科学部、生命科学部で実施。英検やTEAP、TOEIC®、TOEFL®、GTEC等指定試験のスコアが、各学部の示す基準以上であれば、当日の英語の試験が免除されます。参加学部も年ごとに増えて、来年度には法学部法律学科・国際政治学科と理工学部（機械工学科航空操縦学専修を除く）も実施します。本学に限らずこうした入試を実施する大学は年々増えていて、受験者数も年毎に増えています。特別入試においても経済学部では、英語学部試験利用自己推薦特別入試を実施しています。

また国際バカロレア利用自己推薦特別入試（文学部哲学科・英文学科、経済学部、人間環境学部、キャリアデザイン学部が実施）も実施しています。

これらの入試は、グローバル人材を目指したいという高校生へ向けて、その意欲にしっかり応えたいという大学のメッセージであるとともに、現在進んでいる英語4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく育成することを目指す英語教育改革の流れに対応したものであります。実際、英検準一級取得者などのスコア基準を満たす高校生が年々多くなっていることを実感しています。

高大接続改革（大学入学者選抜改革）の中で、「大学入学共通テスト（仮称）」の英語では4技能を評価するものになります。私たちとしては、高校生のみなさんの日頃の学びを大学でより一層深められる環境を用意し、将来英語を使って世界のどこでも活躍できる人になりたいという志に応えるべく、一層の入試改革、教育改革に取り組んでいきたいと考えています。